

学生レポ! 私も 広大です

誰でも気軽にできる手形アートの魅力
たくさんの人に届けたい

petapeta-art®という子どもの手形や足形をさまざまなモチーフに見立てたアートを考案し、その普及に向けたイベント開催や講師育成を行っています。きっかけは、私自身の子育て経験。初めての育児でストレスがたまり体調を崩してしまった時、気分転換の方法として手形アートを思い付きました。手形アートは以前からアメリカや日本の保育園でも取り入れられていましたが、絵の具を使ったものが多く、家庭で行うのは大変でした。そこで、水性のインクパッドとマスキングテープを使い、誰でも手軽にできる形にアレンジ。自分と同じように子育てにストレスを抱える人々の助けになりたいと思い、会社を設立しました。

創業時は広島での教室やイベント開催を中心に展開していましたが、認知度が上がるにつれて県外の企業からもお声掛けいただくようになりました。そのうち、手形アートの講師になりたいと言ってくださる方が現れて、講師育成のサービスも開始。今では1200人を超える講師が全国で活躍しています。また、シヤチハタ株式会社と共同で、肌に優しい塗料を使った手形アート専用のインクパッドを開発しました。

手形アートは育児の気分転換になるほか、子どもの成長を目に見える形で残せるという魅力があります。子どもが成長すれば、一緒に作品づくりを楽しめるようになり、親子の思い出作りや愛着形成にもつながります。「人生が変わりました!」と言ってくださる方がこれまで何人もいて、本当にうれしかったです。

現在、コンテンツの意義を学術的に説明するために、広島大学の保健学分野の先生と手形アートの精神的な効用について共同研究中。作業療法的な効果があれば、終末期医療に応用できる可能性もあります。最近では老人ホームでのイベント依頼も増えているため、さらに幅広い年齢層をターゲットにした展開を検討しているところです。

学生時代に一生懸命取り組んだことが 自分の将来を豊かにしてくれる

広島大学へは3年生の時に編入学したので、短期間で単位を修得できるよう、勉強に必死でした。日本文学を学び、研究職を志望して、卒業後は大学院に進学。ひたすら本を読んでは論文を書く日々を送りました。結局研究職には就けませんでした。自分の好きな学問をとことんまで究めた経験は、現在の仕事に役立っていると感じます。後輩の皆さんには、ぜひ大学で自分のやりたいことに没頭してほしいですね。そうやって学生時代に情熱を傾けて、培ったものがきっと何らかの形で自分の人生を豊かにしてくれるはずです。

広島大学を卒業・修了後、各業界で活躍されているOB・OGの方々に学生がインタビュー。現在のお仕事と大学時代を語っていただきました。

文学部・大学院文学研究科 出身

山崎幸枝さん

株式会社petapeta 代表取締役
(広島県広島市中区)

やまざき・さちえ/広島大学文学部2004年度卒業、大学院文学研究科博士課程前期(人文学専攻)2007年度修了。2016年に株式会社petapetaを設立。2児の育児の傍ら、手形アート作家として活動。全国での親子集客イベントの企画受託と開催、専用商品の開発・販売なども行う。第23回ひろしまベンチャー助成金/育成賞金賞受賞。中国地域女性ビジネスプランコンテストSOERU第二回中国経済産業局長賞(大賞)受賞。



Report

学生広報ディレクター

子育ての経験がきっかけで起業したというお話は興味深かったです。手形や足形は小さな子どもが好きなイメージがありましたが、大人やお年寄りも楽しめるものだと知り、驚きました。子育ての苦労など、なかなか知る機会のないお話が聞けて、良い経験となりました。

教育学部4年 野村 健悟さん



たけだ・まさふみ/広島大学教育学部2007年度卒業、大学院教育学研究科博士課程前期(心理学専攻)2010年度修了、臨床心理士の資格を取得。広島大学1年生の夏休みに得度。広島県三原病院・精神科で3年間勤務した後、実家である浄土真宗本願寺派高善寺で副住職の仕事とスクールカウンセラーなど、臨床心理士の資格を生かして地域に貢献している。



武田さんのYouTubeチャンネルはこちら



教育学部・大学院教育学研究科 出身

武田正文さん

浄土真宗本願寺派 高善寺 副住職
(島根県邑智郡邑南町)

僧侶とカウンセラー、2足のわらじ 目の前にいる人の幸せを願って

実家のお寺で僧侶をする傍ら、臨床心理士として地元の小中高校や企業でカウンセラーをしています。寺の長男に生まれ、子どもの頃から僧侶になると思っていました。宗教以外の学びでお寺を変えられないかと考え、大学院では心理学に進み、在学中に得度(出家して受戒すること)と臨床心理士の資格取得という今の仕事の基本を身に付けました。

スクールカウンセラーとして学校に向う中で、この町に足りないと感じたものをできる限りお寺で提供しています。例えば、町内には学習塾がほとんどありません。そこで、寺子屋を開き勉強を教えています。同時に不登校や引きこもりの子どもたちを支援しています。目の前の人々が幸せに生きるのを支えることは宗教の教えに沿ったお寺の役割ですから。

プログラミングの授業もお寺でやっています。本堂にドローンを持ち込み飛ばしたことも。子どもにも大人にも喜んでもらえ、田舎にいても最先端技術に触れられるのだと分かってもらえたと思います。また、若い方に仏教を身近に感じてもらったり、自力でお寺に行けないお年寄りが家で法話を聞けたりできるよう、「仏心チャンネル」というYouTubeを開始。ご本堂のYouTubeスタジオから世界に発信しています。お寺に来る子どもたちは、私をユーチューバーと思っているんじゃないでしょうか。なりたい職業の上位に挙がるユーチューバーが身近にいることが子どもの夢やこの町の可能性になればいいと思っています。

人脈を生かしてやりたいことに挑戦 チャレンジしないことがリスクに

在学中はバンド活動やパーでのアルバイトなど、いろいろとチャレンジしました。アルバイト先のパーのマスターは、同じ広島大学出身で偶然にも住職のお孫さんだったので、仲良くしてもらいました。「新しいことの始め方」を教わり、そのパーを拠点に講演や音楽のイベントを企画・実行しました。その経験が今お寺でイベントをする際に役立っています。イベントに招いた人も含め、面白い大人の存在が自分の人生に大きな影響を与えてくれました。

広島大学はワクワクする大学だと思います。広大ネットワークは広く、その人脈をたどっていけば、知りたいことや実現したいことに到達できます。学生の皆さんには、勉強はもちろんですが、楽しいことにどんどん挑戦してほしいと思います。失敗したり、飽きたりしたら、やめればいい。チャレンジしないのがリスクになる時代です。意味がないと思えることも、必ず自分の身になります。

今までとは違う価値観を持ち込み、誰もがお寺に行けば何とかなると思ってもらいたいと考えています。そしてその考えに共感して協力してくれる行政や学校、住民の皆さんと力を合わせて、良い町にしたいと思っています。人口減少などで寺院が消滅する中で、お寺が地域を支えていくという構造が一つのモデルになればいいですね。

Report

学生広報ディレクター

「今まで通りのお寺ではいけない」という言葉が印象に残りました。大学時代に学ばれた、心理学と仏教を結び発信するという新しいお寺の形を見せていただいたと思います。「地域あつてのお寺」を根底にさまざまな取り組みをされており、挑戦することの大切さを学びました。

教育学部4年 山下 奈那子さん

